

【高等学校用】

令和7年度学校評価 結果・学校関係者評価

達成度(評価)
A: 十分達成できている C: やや不十分である
B: おおむね達成できている D: 不十分である

学校名	佐賀県立佐賀工業高等学校 定時制			
1 前年度 評価結果の概要 (簡潔に)	<ul style="list-style-type: none"> 「学びの時間」の取組において、アンケート結果により、生徒の学習に対する意識の向上に繋がっていることが分かった。 「いじめ問題への対応」について、成長過程でいじめは起こるものという認識のもと、いじめの未然防止、早期発見、早期指導に努める。 健康について考えながら食事をとることの重要性を伝えることに課題が残った。食事の提供についての工夫を行い食べやすい雰囲気を作り、喫食率の向上に繋がった。 学校紹介パンフレットの工夫、高校説明会、中学校訪問等を通じて、定時制教育の魅力発信に取り組み、生徒募集に繋げることができた。 	2 SAGAスクール・ミッション 学校教育目標	中部地区唯一の工業科を持つ定時制高校として、地域及び日本の産業界を牽引し、高い倫理観をもって、人々が暮らしやすい社会を創造できる工業技術者を育成する。	
3 スクール・ポリシー	アドミッション・ポリシー 1 ものづくりに積極的に挑む態度、地域・社会に貢献する技能・技術を育成します。 2 基本的学習習慣、社会で通用する基礎学力、気力・体力を育成します。 3 社会的・職業的自立に向けた勤労観や職業観を育成します。 4 多様性を受け入れ、人権感覚を持った豊かな心を育成します。	カリキュラム・ポリシー 1 少人数でのきめ細やかな指導により、一人一人を尊重し、安心して取り組める授業を実施します。 2 基礎事項・基礎学力の定着と家庭学習の習慣化に取り組みます。 3 アルバイトや社会活動を推奨し、学校外での活動を通じ、社会人としての基礎力の養成に努めます。	グラデュエーション・ポリシー 1 仕事と学業の両立を目指し、高校を卒業したいという強い気持ちを持つ生徒 2 就職または進学を目標とし、意欲的に学習に取り組む生徒 3 ものづくりに興味・関心を持ち、資格取得に意欲的に取り組む生徒 4 まわりの人と力を合わせて部活動・学校行事等に取り組む協調性のある生徒	～“ものづくり”から“者(ひと)づくり”そして“未来(あす)づくり”～ a 新たな課題への着実な対応 b 深い生徒理解に基づく指導 c 規律ある高校生活の定着 d ものづくり教育の推進

5 重点取組内容・成果指標

(1)共通評価項目		中間評価		最終評価		結果・学校関係者評価		
評価項目	重点取組内容	成果指標(数値目標)	中間評価		最終評価		意見や提言	
			進捗度(評価)	進捗状況と見通し	達成度(評価)	実施結果		
●学力の向上	○わかる授業の実践と学習意欲の向上	○学びの基礎診断を活用し、国語・数学の平均点を50点以上に上げる。	B	・各クラスで少人数を活かし個々に対応した授業の実践を行っている。1・2年生で行う学びの基礎診断は、10月予定なので結果が出ていない。これから取り組みを行う。	A	・学びの基礎診断の結果、75%の生徒は前年度より学習力が向上しており下がった生徒はいない結果判定となった。これからも、わかる授業の実践と学習意欲の向上に取り組む。	A	・中間評価日からAへと最終的に結果が出た点をA評価としています。 ・個々に対応した教育を限られた人員で対応することには大変ご苦労があられるかと思いますが、来年度も継続してください。 ・少人数制の特長を生かし、個々の生徒のニーズに応じた授業運営が実践されていると評価できる。生徒および保護者のアンケート結果からも主体的な学びの実感が示されており、今後もその取り組みの継続とさらなる充実が望まれる。
●心の教育	●生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○相手の思いやり、命の尊さを再認識したと回答した生徒85%以上 ○人権感覚を持った豊かな心を育成する。	A	・エイズ予防講話、性に関する指導講話を実施する。 ・ホームルーム活動において人権教育、情報モラル教育を実施する。	A	・前期にエイズ予防講話、スクールカウンセラー講話、性に関する指導講話を実施し、自分を大切にすること、相手を思いやることを通じて命の尊さについて考えた。 ・人権についても生徒研修会、人権学習・進路保障ホームルームを行い、さまざまな人権を学んだ。	A	・85%以上の生徒が今回の活動について認識している点をA評価しました。 ・心の教育は将来の人生において必ず心の豊かさをはぐくむと思います。 ・スクールカウンセラーと連携した体制のもと、人権および生命の尊重に関する講話や研修が計画的に実施されており、心の教育を推進する取り組みが着実に進められていると評価できる。
●心の教育	●いじめの早期発見、早期対応に向けた取組の充実	○学校生活アンケート等を2か月に一度実施し、「未然防止」「早期発見」「早期対応」に向けた体制の推進する。 ○いじめを「しない」「させない」「ゆるさない」心を育成する教育を実践する。	A	・アンケート調査ならびに担任による面談等を実施する。 ・全職員による登校指導等を行い、未然防止・早期発見につなげる。 ・全職員によるいじめの認知と認知に関する情報の共有を図る。 ・ホームルーム活動や集会等で、心を育成する教育を実践する。	A	・アンケート調査を2ヶ月に一度実施し、いじめの未然防止、早期発見、早期指導に努めている。今年度、特別指導措置は0である。 ・LHRでは交通安全教室、薬物乱用教室、暴力団排除教育講話を行ったほか、現役の弁護士や、銀行協会の講師を招き、SNSに関わる知識、ライブプランなどについて生徒への啓蒙活動を行っている。	A	・いじめの早期発見、早期対応に向けた取り組みについて、特別指導措置は0とのことで、活動が結果に結びついていると評価できます。 ・アンケート調査による実態把握や担任による面談を通じて、いじめの未然防止に向けた体制が整備されていると評価できる。今後も取り組みを継続し、きめ細かな対応の充実を図っていくことが望まれる。
●健康・体づくり	●「望ましい食習慣と食の自己管理能力の育成」 ●「健康を考えて行動できる能力の育成」	●「健康に良い食事をしている」と回答した生徒80%以上 ○給食喫食率80%以上を目指す。 ○感染症、食中毒等を防ぐための自己管理能力を育成し、「手洗いは大切である」と答える生徒100%を目指す。	B	・食育講話を実施。食に対する重要性を説き、喫食を促す。 ・給食アンケートを2回実施する。 ・グロッタ・バグを使った手洗い指導を実施(1年生対象)する。	B	・1回目の給食アンケートでは、「健康にしているために食事は大切である」に88%の生徒が回答した。2回目の給食アンケートで、「健康に良い食事をしている」について質問する予定である。 ・給食の喫食率については、前期は70%であった。食に対する重要性を説いていきたい。 ・感染症対策などの一環で、手洗い指導を行い、「手洗いは大切である」と100%の生徒が回答した。	B	・この点は学校でどこまで対応できるのかという点ではありますが、食育の取り組みを継続し、生徒の意識を高く持つことで健康・体づくりにつながると思います。 ・健康を維持するために必要不可欠な「食」をテーマとして、栄養職員と連携した十分な取り組みが行われている。給食喫食率は目標値を若干下回ったものの、アンケートの実施や講話による啓発活動が行われていることから、総合的に判断し評価をAとした。
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外在校等時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する ●年間20日の年次休暇のうち、職員1人当たりの年次休暇の取得日数14日以上	A	・学校行事の精選に努めるとともに、校内の諸会議を勤務時間内設定し、業務の適正化を図り、時間外勤務の削減を図る。 ・年次休暇の積極的取得を推奨し、教職員の心身の健康増進に努める。	A	・昨年度に引き続き今年度も時間外在校時間を前年度より削減することができた。 ・学年希望者1名については、丁寧に入試の準備を進めている。 ・職員の平均年齢が高いこともあり、休暇も含め健康維持には職員全体で取り組む雰囲気づくりに努めている。	A	・職員数が不足しているとお聞きしました。その中で時間外在校時間を前年度より削減した点は評価できると思います。 ・働き方改革と業務効率は相反するところがありますが、今やっているので、本当に必要がある業務なのか、「やめてみる」のも一つの選択になるかと思えますので、そういった業務や取り組みがないか検討してみたいかができれば。 ・時間外在校時間や年次休暇の取得状況から、働き方改革は概ね順調に推進されていると判断できる。 ・工夫されて、全職員での取組が必要であるが、十分に対応されている。
●特別支援教育の充実	○特別支援教育に関する教員の意識の向上	○生徒それぞれの個性を受け入れ、社会に出る前の準備期間として、支援・見守りを行う。	A	・特別支援教育に関する研修会を行い、ストレス軽減やモチベーションの向上などについて学び、生徒支援の活力を得た。 ・月1回の生徒情報共有を通じて、全体で声かけや見守りなどを行っている。	A	・8月に特別支援教育に関する研修会を行い、ストレス軽減やモチベーションの向上などについて学び、生徒支援の活力を得た。 ・月1回の生徒情報共有を通じて、全体で声かけや見守りなどを行っている。	A	・カウンセラーと活用して、生徒全員と面談を2回実施した。話をすることで心が落ち着き、学校生活を穏やかに過ごすことができた。 ・月1回の生徒情報共有を通じて、全体で声かけや見守りなどを継続している。
(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目								
評価項目	重点取組内容	成果指標(数値目標)	中間評価		最終評価		意見や提言	
			進捗度(評価)	進捗状況と見通し	達成度(評価)	実施結果		
○進路実現	○進路実現 生徒が希望する進路を実現させる	○就職内定率、進学内定率ともに100%を目指す ○進路意識の高揚と職業観・勤労観の育成と定着。年度末生徒アンケートで「身についた」生徒70%以上を目指す	A	・生徒の能力・適性・希望に合った進路先の情報提供と適切な指導助言に努める。 ・在学中の就業率向上と職業講話などを通して職業観・勤労観の育成と定着を図る。	A	・就職希望者3名中2名が一次試験で内定をいただくことができた。進学希望者1名については、丁寧に入試の準備を進めている。 ・前期に引き続き後期も職業講話を予定している。	A	・以外に県外からの求人というのが印象的でした。県内の求人数が増加するような施策が必要かと思いますが、企業側も理解し、学歴だけでなくどういったことを学生時代にしてきたのか、評価しないといけないと思います。 ・就職希望者の適性を考慮した適切な進路指導が実施されている。今後は、定時制における求人情報を集約する仕組みの構築や、情報提供の在り方についての工夫が望まれる。
★ものづくり教育の推進	★ものづくりに対する興味関心の醸成 ○ジュニアマイスター取得者の増加	★自分の学校を中学校に勧めることができる生徒の割合を80%以上、教職員の割合を85%以上とする。 ○学習に対し、主体的に取り組んだと思う生徒80%以上を目指す。 ○各種資格取得について、次の目標を達成する。 ・計算技術検定合格率90%以上 ・パソコン利用技術検定合格率75%以上 ・危険物取扱者試験合格率40%以上 ・第2種電気工事士合格率100%以上	A	・個々の能力に応じた、きめ細やかな指導により、生徒の個性・能力・特技の伸ばしを図る。 ・始業前、放課後の補習を実施し、資格取得に対するチャレンジマインドの向上を図る。 ・学習が遅れ気味の生徒への個別指導を実施する。	A	・計算技術検定合格率83.3%、危険物取扱者合格率75.3%で概ね目標達成。 ・授業と同様に、補習においても少人数のきめ細やかな指導が実施できた成果である。 ・後半に実施される第2種電気工事士・パソコン利用検定試験でも補習を実施し、それぞれの合格率の目標値を目指す。	A	・学校を中学校に勧めることができる生徒は82%、教職員100%で目標達成。 ・学習に対し、主体的に取り組んだと思う生徒は82%で目標達成。 ・電気工事士合格率100%、パソコン利用検定試験合格率76.9%、危険物取扱者試験合格率75.3%で目標達成。 ・計算技術検定合格率83.3%で目標に届かなかった。 ・資格取得に関して、少人数での補習を行い、きめ細やかな指導が実施できた成果である。
○開かれた学校づくりの推進	○魅力ある情報の発信 ○志願者、保護者の学校理解の推進	○年度末アンケートで学校の理解ができた保護者70%以上を目指す。	B	・保護者後援会で学校行事等の情報を発信し、学校行事等の情報を学校ホームページでも発信していることを伝える。 ・高校進学説明会等に積極的に参加し定時制高校の魅力発信を行う。	A	・ホームページ等を活用して情報発信を行っている。令和8年度より学科改編により情報科が新設され定時制高校の魅力発信を行っている。	A	・情報科を設置されたことと、近年ITエンジニアの需要は高まっています。今後の情報発信に期待します。 ・ホームページを活用し、積極的な情報発信が行われている。近年は、繊細な性格等の背景から丁寧な指導を必要とする生徒が増加する傾向にあるが、定時制の少人数制の特長を生かし、個々のニーズに応じたきめ細やかな指導が実践されている。今後も、その取組を積極的に発信することで、開かれた学校づくりが一層推進されること期待される。

●…県共通 ○…学校独自 ◎…志と誇りを高める教育 ★…唯一無二の誇り高き学校づくり

6 総合評価・次年度への展望 (簡潔に)	・「学びの時間」の取組において、診断の結果が75%の生徒が前年度より学習力が向上しており、自主的に学習に取り組む姿勢が身に付いており、継続して取り組んでいく。 ・「いじめ問題への対応」については、成長過程でいじめは起こるものという認識のもと、いじめの未然防止、早期発見、早期指導に努める。また、教育相談体制を維持し、生徒の安心安全な学校生活の確保に取り組んでいく。 ・給食アンケートでは、健康について考えながら食事をとることの重要性を伝える88%の生徒が「健康にしているために食事は大切である」回答した。冬場に欠席者が増えた原因で給食喫食率が80%に達しなかった。今後は給食担当者が、食事の提供についての工夫や生徒への声かけなどを行い食べやすい雰囲気を作り、次年度も「食の大切さ」を含めた健康教育の充実に取り組む。 ・学校紹介パンフレットの工夫、高校説明会、中学校訪問等を通じて、一層の定時制教育の魅力発信に取り組み、学校見学者や志願者増に繋げることができた。来年度も継続していく。
----------------------	--